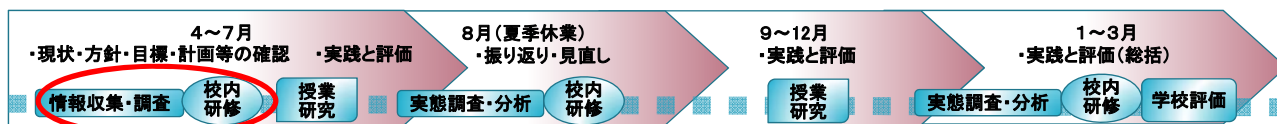


第2章

「学校力」向上の手立て

「学校力」向上のための手立てと研修の例を示しました。





1

目指す方向を確認し、目標実現に向けた方策を共有する

教育活動の全てに学校としての基本姿勢が貫かれており、教職員による指導の軸がぶれないことが、教育的効果を上げることにつながります。そのためには、管理職がリーダーシップを発揮し、各学校で、どのような教育を行い、どのような児童生徒を育てていくか、学校として「目指す姿」を明確にする必要があります。

その際、教育実践の主体である個々の教職員の取組と学校全体の取組がつながっていることが重要になります。全教職員が、自校のよさや課題、指導の重点を意識して日々の教育活動に取り組むことができるよう、各分掌や個人の役割、取組状況や目標の達成度を測定する方法についても確認し、具体的な行動計画を立てることが大切です。

Check

■ 学校の現状を把握し、目標を共有していますか？

- これまでの取組や調査結果、教職員の観察等を基に、児童生徒の生活や学力等の実態について確認する。
- 児童生徒の実態や学校課題に則した重点目標を設定する。
- 児童生徒に身に付けさせたい力や育てたい態度を明確にする。

■ 目標の実現に向けて有効な方策がとられていますか？

- 目標の達成度を測定する方法を明確にし、計画に位置付ける。
- 取組について定期的に協議したり報告したりする場を設ける。
- だれが、いつ（までに）、何をするのかを明確にする。



キャリアに応じた役割

校長・教頭

- ・学校としての方針を明確に示し、全ての教職員の参画意識を高める。
- ・目指す学校像や重点目標について、簡潔な言葉で繰り返し伝える。

ミドルリーダー

- ・学校運営について、自分の意見を持ち、柔軟な発想で、推進案や企画等を提案する。
- ・全体の方針を伝え教職員の意見集約を積極的に行う。

若手教職員

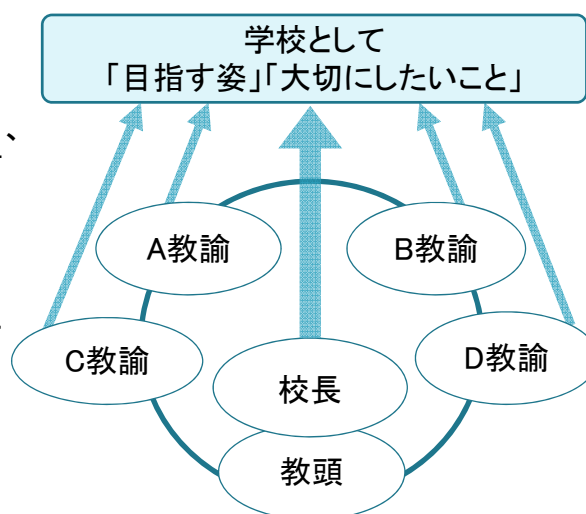
- ・自分の考えや疑問について、遠慮なく先輩教職員に伝え、助言を受ける。
- ・自分の校務分掌以外の仕事にも関心を持ち、積極的に協力する。

研修の例

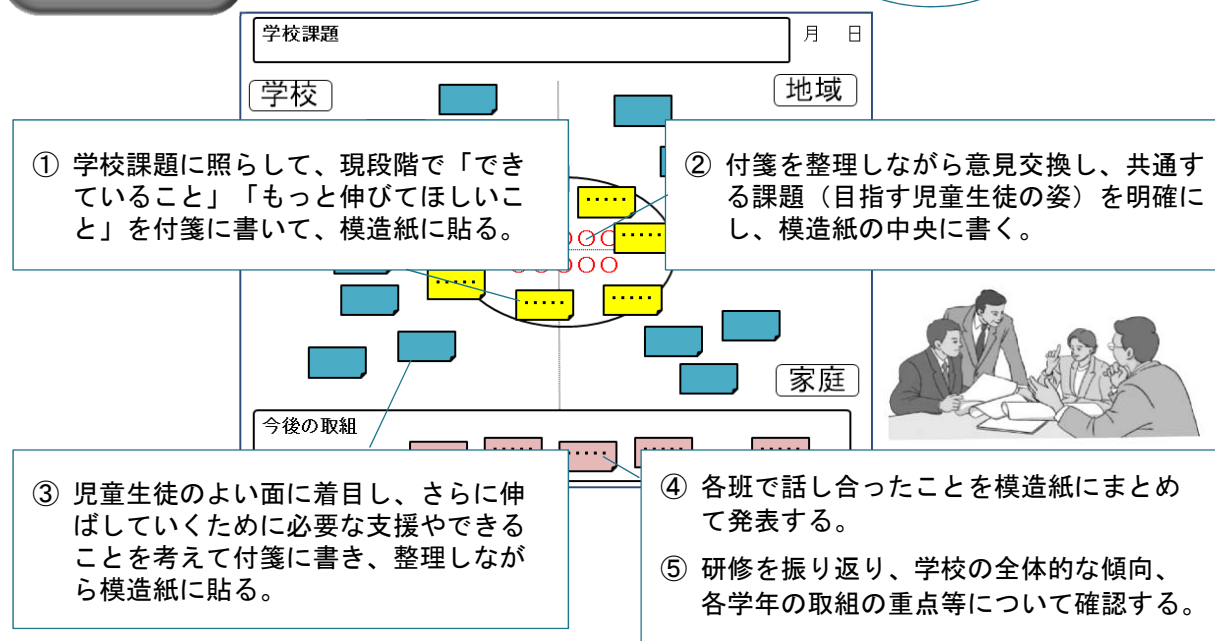
● 自校の教育課題の可視化と共有 ●

目 的

- 自校の児童生徒のよさと課題について、個々の教職員が抱えている思いを共有する。
- 学校として「目指す姿」や「大切にしたいこと」を確認し、学年や分掌等における重点目標を明確にする。

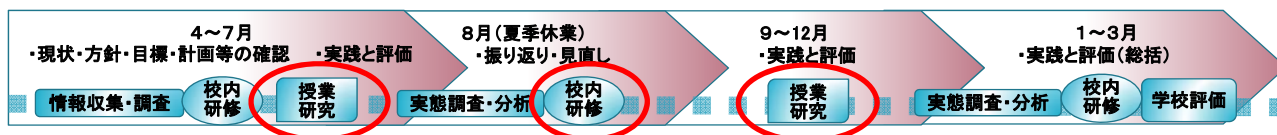


手 順



ポイント

- ◆ はじめに、校長が研修の目的と学校経営の方針について説明して、教職員の参画意識を高める。
- ◆ 教頭は主任をサポートし、教職員が自校の児童生徒のよりよい成長を第一に考えて、学び合えるよう、雰囲気づくりをする。
- ◆ 取組の重点等を全体で確認した後、学年や教科、分掌等のチームで具体的な方策(計画・実行・評価の時期や方法等)について話し合う場を設ける。



2

校内研修で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる

学校における教育活動の中核は、日々の「授業」です。授業や児童生徒の様子について学年会や教科部会で話題にし、定期的な情報共有や率直な意見交換を通して、よりよい授業づくりに努めましょう。各学級で行われている授業の質を学校全体で高めていくためには、校内研修を充実させることが大切です。教職員が、児童生徒の姿や発言といった具体的な事実に基づいて学び合うとともに、学力や意欲等を測る客観的データも活用して、より多様な視点から児童生徒の成長や変容を捉え、指導の改善につなげていくことが重要です。

Check

■ 重点目標を意識して授業を行い、実践を共有していますか？

- 授業力向上のために継続的かつ組織的な研修を行う。
・「目指す授業」の確認、指導内容・方法の検討、実践報告、課題の確認 等
- 基礎学力育成に必要な時間の確保、指導体制づくりを工夫する。
・習熟度別指導、朝の活動や放課後を利用した補充指導、家庭学習習慣の形成 等
- 学習意欲を高める教育活動、環境整備を充実させる。
・学ぶ意欲が育つプロセスに着目した授業実践、学校行事の展開 等
- 達成状況や取組の過程について定期的に点検する。
・単元や学期ごとの定期的な学力定着度の把握
・教科・学年、学校としての学力実態の分析と引継ぎ 等



キャリアに応じた役割

校長・教頭

- ・学校課題について教職員が定期的に話し合う時間と場をつくり、協働して授業改善に取り組むよう促す。
- ・教職員一人一人の努力や取組を認め、助言等を通して、教職員のよさや目標を引き出す。

ミドルリーダー

- ・積極的に授業を公開し、同僚を巻き込みながら協働して研修を行う。
- ・研修では参加者全員が発言できるように配慮し、協議によって明らかになった課題を意識して、今後の実践ができるように促す。

若手教職員

- ・学校の重点目標を意識して授業を行い、学習指導や児童・生徒指導、学級経営における基礎的な力を身に付ける。
- ・目的意識をもって研修に臨み、積極的に発言するとともに学んだことを実践に生かし授業力向上に努める。

研修の例

●成果と課題の共有と改善策の明確化●

目的

- 個々の教職員の教育実践に関する知識や経験について情報交換をすることで、学校全体の授業の質を高める。
- 児童生徒の授業中の様子から、身に付いている力や今後伸ばしていきたい力を明確にする。

手順

- ① 授業研究会の目的と進め方を確認する。
- ② 授業者の反省と協議事項の確認をする。
- ③ グループに分かれて協議する。
 - ◇授業中の児童生徒の様子や自身の気付き等を記入した付箋を貼りながら、意見を交換する。
 - ◇付箋を類型化し、検討する課題を見いだす。
 - ◇課題改善の具体策を話し合う。
- ④ 協議内容を発表し、共有化を図る。
 - ◇成果と課題を整理する。
 - ◇今後の取組の重点について全体で確認する。
- ⑤ 研修を振り返り、各自、学んだことや今後取り組むことを明確にする。

ポイント

- ◆授業参観の視点や協議の際の重点事項を決め、参加者全員で共有する。
- ◆授業中の児童生徒の具体的な事実に基づいて、ねらいの達成状況や手立ての有効性について検討する。
- ◆研修で学んだことを各自の実践に生かし、指導改善につなげるための方策を明らかにする。

実態の把握・分析に基づく
目標・課題の共有



校内研修

- ・調査結果分析・実践報告・授業研究
- ・事例研究・取組の評価・改善策の検討



日々の授業実践

授業の見方を鍛え、多面的な児童生徒理解を深めるとともに、授業づくりに必要な知識・技能等を学ぶ。

本時のねらい



児童生徒の事実
(行為や関係等)

教師の指導観、
子ども観、経験



達成状況の判断

- ◎事実に基づく話し合い
- ・児童生徒の実態・変容
 - ・手立ての有効性
 - ・本時のねらいの妥当性 等

〇月〇日 〇〇科「 」 〇年〇組 授業者()			
	授業の観点1	授業の観点2	その他
な参 考 点 に			
た気 点 に な つ			

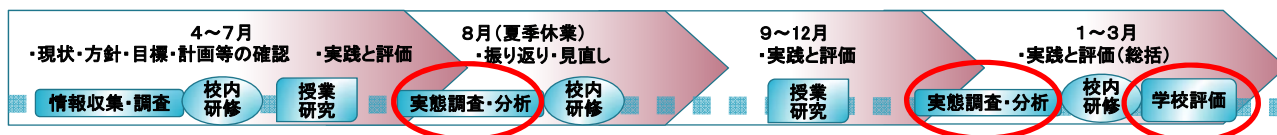
ワークシートについては、本図の観点別シートの他に、時系列シートが考えられる。

〈参考〉

校内研修と日常の授業実践をつなぐ工夫(例)

- 「実践記録・レポート作成」
- 「実践報告・プレゼン大会」
- 「一人一研究」

- ・設定したテーマに基づき研究授業を行い、研究会で成果と課題を確認する。
- ・課題を意識して授業改善に取り組み、工夫したことや児童生徒の変容等を、実践記録としてまとめ、報告する。



3

児童生徒の実態・変容を把握し、取組の効果を検証する

教育活動の改善には、児童生徒の実態を適切に捉える必要があります。諸テストや調査等も活用して、目標や児童生徒に身に付けさせたい力の達成状況を把握し、学期や年度末には、各自の振り返りとともに、教職員による話し合いを通して取組の成果と課題を整理し、改善策についても検討しておきましょう。

こうした検討作業を十分に行うことは、教職員の協働意欲の向上につながります。また、検討作業をどのようなチームで行うかということも、組織力を高める上での重要なポイントとなります。学校の教育活動全体を見渡した幅広い観点から取り組むべき課題を明らかにし、検討を経て出された提案については可能な範囲で次期の計画に反映させるとよいでしょう。このような取組が学校運営への教職員の参画意識を高め、協働して改善に取り組む原動力になります。

Check

- 児童生徒の変容を具体的に把握していますか？
- 成果と課題を整理し、全教職員で改善策を検討していますか？

● 諸テストや調査を活用し、身に付けさせたい力の定着度を測定する。

● 調査結果を分析し、目標に照らして取組を評価する。

● 改善に向けた方策について協議し、次期の課題を確認する。



キャリアに応じた役割

校長・教頭

- ・重点目標に照らして評価項目を絞り込み、結果を数値化するなど、取組の成果を可視化する。
- ・重点目標や取組を積極的に発信し、保護者や地域住民の協力を得る。

ミドルリーダー

- ・管理職との意思疎通を図りながら、具体的な目標や評価のポイントを示す。
- ・研修で出された意見を再検討し、焦点化された課題について改善策を提案する。

若手教職員

- ・調査結果の分析や日常の観察等から、児童生徒の成長と自身の取組について確認し、学校組織の一員として取り組むべき課題を明確にする。

研修の例

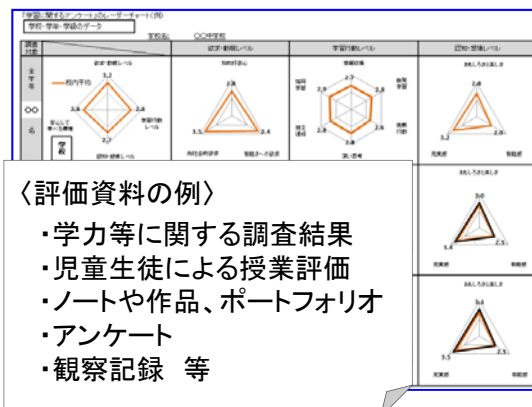
●児童生徒の実態分析と改善に向けた取組の焦点化●

目 的

- 学力や学習の状況を測定する調査等を活用し、学年や教科の枠を超えて、児童生徒の実態を分析したり、必要な取組について考えたりすることで、学校全体で効果ある指導ができるように、課題の焦点化を図る。

手 順

- ① 各自、諸テストや調査結果を基に作成された資料を読み、目標や児童生徒に身に付けさせたい力の達成状況について確認する。
 - ◇学力に関する調査等において正答率の低かった設問を取り上げて分析する。
 - ◇児童生徒、保護者等に対するアンケート等を併用して分析する。
- ② 全体的な状況、学年や教科等における特徴、よさや課題が顕著なデータ等に着目し、数人のグループで意見交換をする。
- ③ 結果の要因について考え、グループで意見交換しながら、これまで進めてきた教育活動や学校運営に関する取組を評価する。
 - ◇目標の達成状況と、目標達成に向けた取組の因果関係の把握に努める。
 - ◇問題点だけでなく、児童生徒のよさや可能性、有効と思われる指導や取組を出し合う。
- ④ 意見を分類しながら、取組の成果と課題を整理し、焦点化した課題について改善に向けた取組を検討する。
 - ◇自校の教育活動全体を見渡した観点から、取り組むべき課題について検討する。
 - ◇すぐに取り組むことや年間を通して取り組むことなど、短期的、中・長期的な取組を明らかにする。



ポイント

- ◆ 全教職員が参加して、できるだけ客観的・多面的な視点で、日常の授業や教育活動を見直す。
- ◆ 目標の達成状況だけでなく、実践過程での評価も大切にする。
- ◆ 評価結果に基づき、教職員の情報交換の機会や委員会を設けて、改善策を十分に検討し、今後の改善につながる実効性ある取組にする。

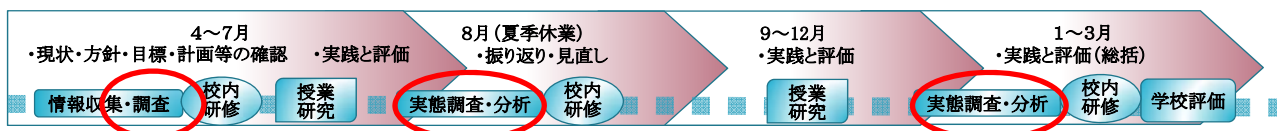
	学習面	生活面
成果		
課題		

	すぐできる	〇月～〇月	〇年度
学級担任			
各分掌			
管理職			

Column 学力や学習状況の実態を適切に把握し、指導改善を図る

学力調査等の効果的な活用

全国学力・学習状況調査等を活用して、定期的に児童生徒の実態を捉えることは、日々の指導について振り返るきっかけになります。また、できるだけ多くの教職員で、調査結果を分析・解釈することで、指導改善に向けて協力する体制をつくることができます。日常の観察等と併せて積極的に活用し、児童生徒の成長や変容を適切に把握し、指導の充実・改善に役立てましょう。



調査結果を分析し、実態を把握する

- ・児童生徒の学力の状況
- ・児童生徒の学習意欲・学習習慣
- ・指導体制・指導方法 等

課題を焦点化し、改善策を検討する

- ・学校全体で取り組むことや重点目標の明確化
- ・指導内容や指導方法等の改善
(授業での取組、授業以外での取組)
- ・家庭における学習習慣や生活習慣の改善 等

課題を踏まえて、指導の充実や改善に取り組む

- ・重点目標や課題を意識した取組
- ・取組の過程や達成状況の定期的な確認

児童生徒の変容を把握し、取組の成果と課題を明確にする

- ・教科・学年、学校としての学力実態の分析
- ・身に付けさせたい力の定着度の測定
- ・調査結果の分析及び取組の評価
- ・課題の明確化及び改善策の検討

【調査の目的】

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

【調査結果の活用】

- ・児童生徒が自己の学力や課題等を自覚し、主体的に学習に取り組むための資料とする。
- ・全教職員が調査結果を分析することで、調査結果及び児童生徒や指導に関する情報を共有し、課題を明確にして学校全体で指導改善に取り組む。

学力等の実態把握・分析に基づく指導改善シート（例）

①昨年度の課題 ②課題を受けて取り組んだ具体的事項

本年度の重点目標:

◆ 学力・学習状況に関する実態
(○○○○調査の結果) ○月○日実施

(児童生徒による授業評価・アンケート)

(教師による観察等)

⑥取組の評価

③実態分析を踏まえた重点課題

④重点課題に対応した授業改善の方策

◆ 全教科・全学年で取り組むこと

◆ 学年()・教科()で取り組むこと

⑤授業以外の取組

指導の充実・改善に使える資料

